

(様式2)

令和4年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
60	川崎市立下作延小学校	棟居 謙

学校教育目標	今年度の重点目標
○心身ともに健康で豊かな心情とたくましい実践力をもつ児童の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・学び合う楽しさを知り意欲的に学習する ・互いの違いを認め合い、思いやりの気持ちをもつ ・主体的に活動し自己有用感を育む ・健康で安全な生活を送る ・地域の良さを生かした学習をし愛着を深める

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 ①基礎・基本の確実な習得と活用する力・互いに高めあう子どもの育成	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての教科を通して学ぼうという意欲を高め、「わかる」「楽しい」を実感し、共に学び合う子供を育てます。自分の考えをしっかりともち、根拠をはっきりさせて伝え合う指導をする。 ・習ったことを生かし、意欲をもって学べるよう導入を工夫したり、具体物やノートを活用し、考えを整理したり振り返りをして次の学習につなげたりする。 ・朝の短時間学習等を通して、基礎基本的な問題に繰り返し取り組み、知識理解の定着につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> □生活科や社会科を教科の軸として校内研究を進めた。学習課題を作ったり、学習計画を立てたりする「学び方」を大切にして指導したことで、学習の見通しをもったり、1時間ごとの学習のつながりを意識したり、主体的に学習に取り組む児童の姿が見られるようになった。また、既習を生かして思考したり、伝えたりする力が他の教科にもいかされている姿が見られた。 □朝の短時間学習では、新出漢字を学習する時間や算数の習熟の時間にあてることができた。また、学力調査の結果からドリルパークを使って個人の苦手な部分を集中的に取り組むことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆『何を学ぶか』だけでなく、『どのように学ぶか』を重視して、主体的、対話的で深い学びを視点にした授業改善を意識して進める。 ◆これまで通り、子どもが取り組んだ成果物(ノート、ワークシート、ドリルパーク等)を教師が見取り、指導に生かしていく。
2 ②個に合わせた支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数指導(3年生までは35人以下学級編成)、TT(教員2人体制による指導)、習熟度別授業、サポーターによる支援や学習センターを活用した指導や支援等を行う。 ・教科担任制による指導内容の充実を図る。(3年生以上では、教科交換をし指導力の向上を図る。) 	<ul style="list-style-type: none"> □教科担任制を3年生以上に導入したことによって、授業の質が向上した。また、学年の児童を担任以外の教員が見れることによって、児童支援の視点においても効果的であった。 □少人数指導やTT指導によって、より児童に寄り添うことができ学習効果があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆少人数指導のよさを生かし、教員同士の連携を密に図り、「わかる」「できる」姿が見られるように支援を充実させていく。 ◆35人以下の学級編成とする。 ◆学級内で有効な支援方法を考え、日常につまづくことが少なくなるような指導を進める。職員同士、より良い指導方法を積極的に共有する。 ◆学習センターでの取り出し指導について、担任とセンター職員との密な連絡により、質の高い学びとする。
3 ③防災教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・地震・火災の他、洪水や台風等の避難も視野に、朝会の活用やカリキュラムを再考し、より充実した防災・防犯教育に取り組んでいく。 ・防災教育を通して、備える大切さを地域に発信し、有事の際児童の安全確保はもとより、避難所となる学校施設を有効に活用できるよう、地域住民の避難所利用の理解を進める。 ・保護者・地域との合同訓練の計画や新1年プログラムに避難訓練マニュアル動画での指導などを組み込んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> □自分の身は自分で守るという意識は引き続き伝え、定着させたい。避難時期を集中かつ前倒しにし、訓練内容もより実際を想定した計画にしたことや新1年プログラムに避難訓練マニュアルでの指導を組み込んだことで、児童の防災意識は高まった。また、地域と連携した取り組みを行うことができた。避難所の担当者に向けては本校の防災情報についての広報に努めた。 □防犯対策への意識を高めることができた。防犯マニュアルの作成及び防犯研修・訓練を実施し、不審者に対するの対処法を指導し、あらゆる場面であっても自分で判断して行動できるように伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆地震・火災の他、洪水や台風等の避難も視野に、朝会の活用やカリキュラムを再考し、より充実した防災・防犯教育に取り組んでいく。 ◆防災教育を通して、備える大切さを地域に発信し、有事の際児童の安全確保はもとより、避難所となる学校施設を有効に活用できるよう、地域住民の避難所利用の理解を進める。 ◆防災バックの中身を再考し、災害への備えを高めている。

(様式2)

令和4年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
60	川崎市立下作延小学校	棟居 謙

学校教育目標	今年度の重点目標
○心身ともに健康で豊かな心情とたくましい実践力をもつ児童の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・学び合う楽しさを知り意欲的に学習する ・互いの違いを認め合い、思いやりの気持ちをもつ ・主体的に活動し自己有用感を育む ・健康で安全な生活を送る ・地域の良さを生かした学習をし愛着を深める

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
4 ④情報教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一台タブレットを利用して、機器の端末操作方法を系統的に指導し、適切に活用できる力と態度を育成する。 ・発達の段階に合わせて系統的に情報モラル教育を進め「適切なコミュニケーション」を育てます。 	<ul style="list-style-type: none"> □周年行事や委員会からの発表など、全校に向けた発表の際にGIGA端末を有効的に活用できた。 □情報を正しく安全に使うために、ギガ端末の使い方を夏休み前に全校に指導した。 □長期休業中の持ち帰りに加え、安全指導など、GIGA端末の特性を活かした課題を出すことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆情報社会においての、適正な活動ができる考え方や態度の基になる考え方を「情報モラル」と定め、折に触れ各教科の指導の中で身につけていきたい。また、年間計画を作成したい。 ◆各学年、習得すべき技術目標を設定して学習を進めていきたい。 ◆各学年のどの単元でどのように端末を活用しているか把握し、より有効的に端末を使っていきたい
5 ⑤健康教育・運動する子ども	<ul style="list-style-type: none"> ・感染予防対策は継続して徹底し、年間を通して特別活動のカリキュラムを見直しながら、衛生指導、歯磨き指導や食の授業、保健・給食・集会委員会等、子供と協力した活動を引き続き充実させていく。 ・さらさらタイムの充実を図り、運動の楽しさを体験することから、体力や運動への関心をより高める。 ・保護者とともに子供の健康について考える機会をつくったり、学校保健委員会の組織や内容に関して再考していく。 	<ul style="list-style-type: none"> □「セルフケア・セルフコントロール」を軸にした健康教育をすすめていくことで、感染予防対策をはじめとし、健康な生活の仕方や病気の予防方法について児童にも保護者にも伝え、意識が高まった。 □感染予防対策は継続して徹底し、年間を通して特別活動のカリキュラムを見直しながら、衛生指導、歯磨き指導や食の授業、保健・給食・集会委員会等、子供と協力した活動を引き続き充実させていく。 □学年が上がるにつれて運動を苦手と思う子中にはいるので、そういう子どもたちへの手立てをこぎする必要がある。多岐にわたる競技の外部講師来校授業により、児童の運動する楽しさ、喜びにつなげることができた。また、外で遊ぶ子どもたちの姿も増えてきた。 □3年ぶりの学校拡大保健委員会開催では、「食」を柱とし給食を取り上げ、「食べることが味方になる」をテーマのもと、保護者とともに栄養バランスを考えた食事の重要性を理解した。保護者からは我が子の給食時の様子がわかり、よかったという感想が多くみられ、家庭と食の大切さについて共有できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆児童の健康は、家庭での取り組みの効果が高いので、保護者と共に健康教育の推進に努める。 ◆児童が主体となって健康への取り組みについて広げるような機会をつくる。 ◆さらさらタイムができなかった。体力向上も含めて来年度への課題とする。 ◆巡回栄養士だけでなく、給食調理員との連絡を密にりつつ、食を通した健康維持増進について児童に伝えていく。

(様式2)

令和4年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
60	川崎市立下作延小学校	棟居 謙

学校教育目標	今年度の重点目標
○心身ともに健康で豊かな心情とたくましい実践力をもつ児童の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・学び合う楽しさを知り意欲的に学習する ・互いの違いを認め合い、思いやりの気持ちをもつ ・主体的に活動し自己有用感を育む ・健康で安全な生活を送る ・地域の良さを生かした学習をし愛着を深める

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
6 ⑥命の重さや価値を実感し、思いやりの気持ちをもつ	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の子供が友達や先生とかわりながら、自分も相手も大切にできるように、すべての教育活動を通して、心の教育・命の教育に努める。 ・人権週間には、「子どもの権利学習」を通して、命の大切さや生きる権利を教える。 	<ul style="list-style-type: none"> □年2回の生活アンケートから児童を理解し、教職員全体で共有するようにし、チームで対応に努めた。 □自分の命だけでなく相手や生き物にも命があり、どれも大切であることを折にふれて伝えた。 □コロナウイルス感染にかかわる偏見や差別についての情報については、登校時に教室のテレビに繰り返し放映し意識するようになり、人権授業で取り上げたりした。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆美しいもの、素晴らしいものにあたり、感動したり、生き生きと生活する大人に触れたりして、心が豊かになる時間を過ごすことができる機会を計画的につくる。 ◆人にやさしくしたり、役に立ったりした時に自分の心も豊かになることを実感させる。 ◆SOSの出し方受け方教育を年度ごと確実に実施し危機的な思いを享受できる環境を整える。
7 共生・共育の実施、コミュニケーション力の育成、いじめを許さない学校風土	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年6時間の「共生*共育プログラム」を行い、社会性のスキルの習得に努めます。「生活のふり返りカード」「学校生活アンケート」を実施し、友達の気持ちを考えながら、助け合って生活することを意識づけ、いじめの防止に努める。 ・教職員はいじめ防止委員会を計画的に開催し、教職員で課題を共有しながらいじめ防止・問題解決に努める。 ・児童支援コーディネーターを中心に子供の心に寄り添ったチーム支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> □共生共育プログラムを実施すると共に、それが日常生活の中で共生共育プログラムの中で学んだこと、経験したことを意識したり、行動したりすることができるようにした。 □年度初めに「いじめは絶対許されないこと」を子ども、学校、保護者と共通理解をした。それがあったから、早期発見、早期対応をすることができた。 □チーム支援を行ってきたことで、子どもの変化等を職員間で情報をすぐに共有することができ、それが児童、保護者への早期対応、早期解決へと繋がった。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆学習と経験を積み重ねていく場を設定し、コミュニケーション能力の育成を図る。 ◆個の理解と集団作りを進めていけるように今後も引き続き継続して取り組み、子どもにとって居心地の良い学校、学年、学級にしていく ◆年度当初に学級づくりについての研修会をおこない児童の心に寄り添う取り組みについて共有する。
8 皆が気持ちよく過ごせるための規範意識の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たち自身が、互いに気持ちよく過ごすためのルール作りや意識づくりに引き続き参画できるようにする。 ・他者に対する感謝の気持ち、ルールを守って生活することの大切さを継続して指導していく。 ・落ち着いて生活を送るために、自分を制する気持ち、我慢をする経験等についてはさらなる成長が必要と感じているため、社会生活に必要なスキルを育んでいく指導を再考していく。 	<ul style="list-style-type: none"> □学校のルールを全校児童に理解させるよう掲示を工夫したり、守れるように言葉がけを継続的に行った。また、全校ミーティングや代表委員会で子どもたち自身が気持ちよく過ごせる学校生活(あいさつ、廊下歩行など)について考えたり話し合ったりした。 □2か月ごとの生活目標についてふりかえりを全校で行い、その成果を確認し、取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆子供たち自身が互いに気持ちよく過ごすためのルール作りや意識づくりに引き続き参画できるようにする。 ◆何のためのルールなのかを自分たちで考え、ルールだけでなくマナーも守れるよう各教科等での指導を行うことで子どもたち自身が意識し、行動できるようにする。

(様式2)

令和4年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
60	川崎市立下作延小学校	棟居 謙

学校教育目標	今年度の重点目標
○心身ともに健康で豊かな心情とたくましい実践力をもつ児童の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・学び合う楽しさを知り意欲的に学習する ・互いの違いを認め合い、思いやりの気持ちをもつ ・主体的に活動し自己有用感を育む ・健康で安全な生活を送る ・地域の良さを生かした学習をし愛着を深める

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
9 主体的に取組む気持ち、自己有用感の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会活動・クラブ活動、係活動その他の活動において、子供たちの発想や意欲を生かした活動に取組み、自分たちで楽しい学校をつくれるように指導する。 ・運動会、40周年記念式典、かがやき発表会など児童の発想から活動が進められるようにする。 ・行事を通して協働し、連帯感・達成感を味わうようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> □40周年記念式典をはじめとし、今年度はチェンジ・ザ・スクールプロジェクトなどを企画を行った。児童の発想を取り入れた活動になり各クラスが楽しい学校を自分達でつくっていけるような主体的な取組みを行うことができた。 □SDGsを意識した活動では、委員会活動をそのきっかけとし取り組むことができた。高学年を中心に日常から自分たちが意識し、考え始める活動を提案することで、主体的に物事に取り組む意識が高まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆児童の発想を生かし、全校児童が楽しめる活動を行うことはできたが、準備の時間などをどう作っていくか再考していく。 ◆継続して行っていけるようなSDGsの活動内容を考えていく。またそのために必要な団体等協働していくことを進める。
10 危機管理・施設の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・心肺蘇生やアレルギー研修、学校安全マニュアルを活用します。 ・日頃の感染防止対策の徹底、教職員による清掃および消毒作業、子供の作品や学習に活かせる掲示物の工夫などを行い、清潔な空間を心がけます。 ・地域の安全見守り、避難所運営会議、PTAと連携し児童の安全確保を図ります。 ・感染予防教育や交通安全教育、薬物乱用防止教育等を実践し、安全に対する意識向上を目指します。 ・教育委員会、地域、保護者と協働し、学校施設設備環境の改善に努めます。(R4屋上壁面防水塗装工事予定) 	<ul style="list-style-type: none"> □安全な登下校指導(家庭・地域・PTAの協力(自分の命は自分で守る)を行った。 □研修について、危機管理意識をもって意欲的に研修に取り組めた。 □感染症予防対策として教職員が一人一人工夫することによって、効果的に行えるよう意識して取り組むことができた。 □毎月の、安全点検をすることにより児童の学習環境の整備に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆子供たちの安心安全にかかわる必要な研修を適切な時期に設定し、対応できるようにしたい。 ◆安全に登下校を行う意識を高める指導を継続していく。 ◆本年度の大きな交通事故の教訓を生かし、地域行政と協力して危険個所の点検をする。 ◆保護者、地域、コミュニティ・スクールと連携し、今後も委員会に要望をあげ学校施設設備環境の改善に引き続き取り組む。 ◆体育館改修・エレベーター設置について行政と連携して進める。

(様式2)

令和4年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
60	川崎市立下作延小学校	棟居 謙

学校教育目標	今年度の重点目標
○心身ともに健康で豊かな心情とたくましい実践力をもつ児童の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・学び合う楽しさを知り意欲的に学習する ・互いの違いを認め合い、思いやりの気持ちをもつ ・主体的に活動し自己有用感を育む ・健康で安全な生活を送る ・地域の良さを生かした学習をし愛着を深める

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
11 地域に愛着をもてるような教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科・総合的な学習の時間・社会科の学習、行事等で地域の「もの・こと・人」との出会いやふれあいを通して地域を愛する気持ち、感謝の気持ちを育てる。 ・目的をもって地域に出かけ、地域の良さを実感する活動を取り入れる。 ・積極的に地域教育資源を開発し、地元企業との連携した授業開発を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> □これまでの作成してきた年間カリキュラムや人材リストを活用しながら、地域と関わる機会を計画的に設定して学習を進めることができた。地域の「もの・こと・人」との出会いにより、地域への愛着を強める子どもたちの姿が感じられた。 □かがやき交流DAYでは、地域で活躍する大人と、体験活動を通して関わることで、地域の人に見守られながら成長していることを実感したり、感謝の気持ちをもったりする良い機会となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆かがやき交流会については、それぞれの体験活動がねらいと合っていたのかを振り返り、来年度以降の内容をさらに検討していく。 ◆これまで通り、教員も地域に出かけ、教材開発に努めながら、児童の実態や興味、関心に基づき、子どもたちが主体となった授業をつくっていく。 ◆今後も、全ての学習を通して、下作プライドを育む活動を進めていく。
12 学校評価を生かした教育の改善・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・学校便り・学年便りにおいて教育方針や児童の様子を保護者・地域の方々にお知らせしたり、随時ホームページを更新する。 保護者向けの手紙、調査結果等メールによる配付をします。紙文書の削減のために、ミマモルメやがくぶりによる文書配付を進める。 学校運営評議会の意見や保護者アンケート、職員の意見をこまめに集め、学校改善に役立する。 	<ul style="list-style-type: none"> □ホームページの配信内容を整理し、保護者に見やすい内容とした。(学年だより学校だよりの統合) □児童の様子について、こまめにホームページの更新をした。(アクセス数最高7000回 去年は2000回) □アンケート機能を利用し、情報収集について保護者・職員の負担軽減に努めた。(面談希望調査・学校評価等) □コミュニティ・スクールで学校運営についての課題をまとめ、教育委員会への要求につなげた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ホームページのこまめな更新により、教育活動について保護者・地域の理解を深める。木曜の学年会で話題にした内容などを毎週掲載していく。 ◆ログフォームを利用し、同意書の収集・様々なアンケートなど行い、効率的で効果的な事務を進める。 ◆コミュニティ・スクールの本来の役割である、具体的に学校運営に関わる趣旨を大事にした組織づくりをする。

(様式2)

令和4年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
60	川崎市立下作延小学校	棟居 謙

学校教育目標	今年度の重点目標
○心身ともに健康で豊かな心情とたくましい実践力をもつ児童の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・学び合う楽しさを知り意欲的に学習する ・互いの違いを認め合い、思いやりの気持ちをもつ ・主体的に活動し自己有用感を育む ・健康で安全な生活を送る ・地域の良さを生かした学習をし愛着を深める

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
------	--------	-------	---------

学校関係者の評価	今年度の学校運営のまとめ・次年度へ向けて
<p>・今回すべての職員と一緒にの会議ということで初めてのことであったが、それぞれ工夫した発表でよかった。</p> <p>・今年度会計報告がされるようになったことは大きく評価したい。</p> <p>・地域防災担当として、児童保護者が広く参加し実態を理解してもらえると嬉しい。</p> <p>・夢パークでは、火をおこす遊びが日常になっているが、いざ避難所となったときに小学生が火を焚いて炊き出しできると声をあげられるこの地域は素晴らしい。教育活動の中にも、自分達が有用で関わる存在であることを学ぶ取組をもっと考えてほしい。</p> <p>・主体的な取組の発表から「えがお」というキーワードがよかった。学校というところは笑顔があふれるところであってほしい。その意味でも、笑顔あふれる記録を見ることができてよかった。</p> <p>・SOSの出し方・受け方教育について実践についてもっと教えてほしい。保護者としても、良い取り組みだと感じている。</p> <p>・地域としては、見守ることが大事だと思っている。子供の後ろにいる保護者に目を向けた取り組みが必要。</p> <p>・心に関する取り組みについて、数値的に保護者と児童に乖離が見られる。保護者に向けた取り組みが大切。</p> <p>・この地域は比較的協力的な人材が多くいる。PTAの活動もなじめない方が参加できるように改善をしている。学校と地域共に活動を進めていきたい。</p> <p>・交通事故の対策として、PTAとして交差点への見守りを多くして対応することとした。学校でも引き続き指導を願いたい。</p>	<p>教育活動全般にわたる大きな柱として 今年度40周年に向けて進めた地域連携及び地域を大事に思う教育の推進は大きな意義があった。今後市制100周年に向けた市の取組と連動して進めていく。次年度も引き続き『下作PRIDE』のもと、主体的な児童の取組と地域を愛する教育活動を推進していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活科・総合的な学習の時間の学習による体験的な学びの充実、児童の主体的に取り組む時間の確保 ・かがやき交流会の実施(地域・地元企業・教育関係団体と連携した教育活動の推進) ・運動会を含めた特別活動を通して、児童の創造性を伸ばす指導を進める。 <p>学力の定着と向上の柱として(GIGA構想ステップ3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きめ細やかな指導の充実のために、35人以下の学級編成を計画する。 ・15分の学習時間(ぐんぐんタイム)では、基礎基本の定着を計画的におこなう。 ・60分間の水曜5時間目(45分では収まらない学習の計画的な配置) ・専科教員の配置 ・学年内教科担任制の推進 ・クロームブック(PC)を有効に利用した学習活動を積極的に行う。表現活動の一つの方法としてのスキルをつけるだけでなく、表現方法として効果的使用できるように指導していく。 <p>誰もが安心して学ぶことができる心の教育の柱として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共生教育プログラム、SOSの出し方受け方教育の確実な実施 ・誰もが過ごしやすい環境づくりのための人権教育の推進 ・下作PRIDEに掲げる自尊感情の醸成 ・きめ細かな教育相談体制の充実(支援教育CO・カウンセラーなど) <p>めまぐるしく変化するIT社会を生き抜く力と自分を守る態度の教育として 児童一人一人が容易に世界とつながることができる端末をもったこと、スマートフォンの所有率が急激に増加したことにより、使用技術の向上ではなく、使用するモラルの醸成が急がれる。保護者、学校関係者からも意見が出された課題であった。責任ある担当者のもとに年度を通して計画的戦略的に事業を進める必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童それぞれのIDの大切さを伝えると共に、情報端末使用から起こるリスクについて、専門家から講義を受けるなど将来に向けて必要な情報モラルのスキルを保護者と共に身につける。 <p>コミュニティスクールの役割と取組を柱として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティスクール(西高津中学校区学校評議委員会)としての取組の推進(交通安全、防災、環境整備、IT活用) ・小中連携教育「心」の教育の推進(4校共通課題) ・川崎市SDGsパートナーズとしての教育活動の推進 ・川崎スポーツパートナーと連携した健康教育の推進 ・学校・保護者・地域・行政をつないだ防災・防犯教育の推進 <p>IT技術の有効活用と開かれた学校としての情報公開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校だより、学校ホームページなどによる、教育的意義や目的、成果についての広報 ・ミマモルメ・LOGOフォームを利用した各種アンケート及び伝達 ・事務効率化をめざしたファイルの開発(IT部の創設)